



全国学力・学習状況調査結果報告「後期課程」

4月17日（火）に行った全国学力・学習状況調査の主な結果について、お知らせいたします。これは毎年小学校第6学年と中学校第3学年（本校の場合は6年生と9年生）を対象としている悉皆調査です。目的は、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることです。以下に、その結果を示しますので、伊豆市のリーフレットと併せてご覧ください。

教科に関する調査の結果



県・全国平均との比較

全ての科目において、県及び全国平均を上回りました。しかし、結果は4月時点における学力・学習状況の一部分にすぎません。一人一人に目を移すと、本調査に取り組んだ生徒それぞれに成果と課題があります。結果に一喜一憂することなく、今後も生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上に努めていきたいと思ひます。

【本校と県・全国の平均正答率との比較表】

	県平均との比較	全国平均との比較
国語A	○	○
国語B	◎	◎
数学A	◎	◎
数学B	◎	◎
理科	○	○

※Aは、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題。
※Bは、基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題。
※平均を上回っている ◎
平均をやや上回っている ○
平均をやや下回っている △
平均を下回っている ▲



国語A、国語B

おおかたの問題で、全国や県の正答率を上回り、漢字の読み書きや選択問題で正答率100%がいくつかありました。また、無解答で終わる問題は一つもなく、問題を解こうという意欲がおおいに感じられました。

選択問題で正答率の低かったのは、「具体例」と「説明」という選択肢についての考え方がはっきりと理解できなかつたり、内容の類似に惑わされたりしたものがあったと思ひられます。漢字の読み書き、語句や慣用句の意味の理解は普段の学習の成果が出ていたように思ひられます。ただ、「ひとえに」という語を選ぶ問題では、生徒の生活の中の語句にはなつておらず、「ほのかに」、「いちずに」と誤答したものもありました。「心を打たれた」を使った短文作りの問題では、正答率は高かつたのですが、前問で意味を確認したにもかかわらず、半数近くが主語を明確にできずに誤答となつてしまいました。これからの課題は、文章を読んで全体と部分の関係を理解し、聞かれていることに対して適切に答える力を付けることです。この点を意識して日頃の授業に取り組んでいきたいと思ひます。

県平均より少し下回つた選択問題が二つあります。選択肢の細かな相違を理解、判断し、正答を選ぶことができなかつたり、書く問題で条件を満たしていなかつたりする誤答がありました。「天地無用」は「天地を逆さにしてはならない」というずっと使われてきた決まり文句にもかかわらず、「無用」という言葉から、「どちらでもよい」と捉えてしまつて、文章を間違つた内容で書いてしまつた生徒が多くありました。生徒たちがあまり目にしない言葉でも文章を正確に読んでいけば、意味を正しく理解し、正答に近づけると思ひます。やはり「書く」「表現」ということが重要視されますので、「文章を正確に読み理解する」、「自分の言葉で正しく表現する」ことのできる力を伸ばしていきたいと思ひます。

数学A、数学B

ほとんどの問題で、全国や県の正答率を上回っています。また、無解答で終わることが少なく何とか問題を解こうという意欲が感じられました。

ある基準に対して反対方向の性質をもつ数量が正の数と負の数で表せることを問う問題では、引かれる数と引く数の関係の理解が不十分でした。着目する必要がある数量を見だし、連立二元一次方程式を作る問題では、式を立てることができませんが、その意味を言葉に表すことができない生徒がいました。

ひし形の性質についての設問では、ひし形は線対称であることは分かっていますが、点対称であることを理解していない生徒がいました。ひし形を平行四辺形と考え違いした可能性があります。

事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明できるかを問う問題では、グラフの横軸に注目することは説明できていますが、読み取った数量の差を求める必要があることを説明し切れていない生徒がいました。

与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができるかを問う問題では、求めた割合が何%か表すには、100倍しなければならないという説明が抜けている生徒がいました。

里奈さんの計算を解釈し、数学的な表現を用いて説明できるかを問う問題では、里奈さんの説明を元にせず、自分なりの説明をする生徒がいました。

自分なりに考えて問題を解こうとしていますが、今後の授業において、根拠を明らかにし筋道立てて説明し伝え合う活動を意図的に設け、数量や図形等に関する基礎的な概念や原理・法則について理解を深めていきたいと思えます。

理科

光の反射についての基本的な知識や、無脊椎動物の軟体動物についての知識、正しい原子記号の書き方についての知識など、基本的な知識を問う問題で平均よりも低い傾向にあります。そのことから、単元テストや個人のまとめなどをより充実させ、基本的な知識や単語を身につけていく必要があると考えます。

軟体動物がどれか選ぶ問題で、ウニの誤答が多くあったのは、生徒の中で「殻があるもの＝軟体動物」という間違った押さえがなされていたと考えられます。今後は授業の中で定義のおさをより明確にしていきたいと思えます。

思考・表現が観点となっている問題では、平均を超えているものが多いものの、他の観点に比べて正答率が低い傾向があります。このことから、授業中に実験の計画立案を自分たちの力で行っていき、科学的な見方・考え方を育てていきたいと思えます。



生徒質問紙に関する調査の結果

学校生活

「自分にはよいところがある」が平均を上回っています。子どもたちは、自分を肯定的に捉え、自信を兼ね備えています。今後も子どもたちに寄り添い、生活での様子を価値づけ、子どもたちの自尊感情を高めていきます。また、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」では100%の生徒がいけないと回答しました。子どもたちは、いじめは絶対いけないという断固たる強い思いを持っています。

学習

「将来の夢や目標を持っていますか」では平均をやや下回っています。自分の生き方について考えるキャリア教育を保護者・地域の皆さまと協力しながら進め、自分の生き方や社会とのかかわりを考える時間を作りたいと思えます。「家で学校の宿題をしていますか」、「家で学校の予習・復習をしていますか」では平均を大きく上回ります。ご家庭の協力の下、確実に家庭学習が行われています。自主学習の継続、内容の指導など一人一人に応じた学習となるよう支援していきます。

保護者・地域

「家の人と学校での出来事について話をしますか」では平均を上回っています。話を聞いてもらえる家庭での居場所がどの子にもあることが気持ちの安定につながっています。また、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」、「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」では、平均を大きく上回りました。多くの子どもたちが、地域の皆さまの温かい見守りの下で健全に育っており、地域の皆さまのご尽力・ご協力に改めて感謝しております。

「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか」では平均を若干下回りました。地域や社会と子どもたちをつなぐ手段として、授業で新聞やニュースを用いる場面を意識的に増やしていきたいと思えます。

